

平沼新党や加藤・山拓とも

亀井静香が仕掛ける「自公分断」の秘策

小沢民主党の総選挙勝利を確信しながら自社さ政権の知恵や学会問題を駆使して

『全特』の郵政票が武器になる

「浪人を糾合して倒幕を企てた」由井正雪は失敗したが、オレはそういうわけにはいかない。間違はなくこれからは乱世になる。見ててください。やりま

すから。世の中が暗いときには明るくいかなくちや。面白おかしくやるよ」国民新党の亀井静香代表代行がこう洩らす。最近はやメディアに登場するこ

とが少なくなったが、次期衆院選に向けての「秘策」を練っているようだ。

6月5日、国民新党は「総決起大会」をホテルニューオータニ(東京・千代田区)で開催した。宴会場「鶴の間」は6千500人もの支援者でこった返した。

綿貫民輔代表や亀井氏の許に駆けつけたのは、自民党の森喜朗元首相や民主党の菅直人代表代行、鳩山由紀夫幹事長、新党大地の鈴木宗男衆院議員らバラエティにとんだメンバーだった。

亀井氏は壇上に立つてこう演説した。「小泉改革」という名のもとに勝者がますます栄え、弱者はどんどんすり

潰される日本になってしまった。皆さん、郵政民営化で何かいいことがありましたか。明治以来のわが国の財産を破壊しただけじゃありませんか。われわれは必ずこれを引っくり返す。『自公政権』はおしまいなんです」

もともと亀井氏は郵政民営化に何が何でも反対といっていたわけではない。05年8月のこと。当時の小泉純一郎首相は郵政民営化法案が衆議院で可決されたのを受け、「参院で法案が否決されれば衆院を解散する」といって、郵政選挙を仕掛けた。また自民党に在籍していた亀井氏は、「日本郵政公社はスタートしたばかりで、2年後の実施状況を見てから『民営化したほうがよい』のか『やはり公社のままでよい』のか、徹底的に話し合って決めればよい」といっていた。

当時を知る自民党関係者がいう。「とくに亀井氏が特定郵便局の票をもらっていたというわけではない。ただ亀井氏は350兆円の郵貯・簡保の膨大な国民資産を、米国が進める金融市場に

委ねることは国益に反すると考えていた。いっぽうで亀井氏は『小泉は解散などできるはずがない』とヨミが浅かったこともたしかだった。しかし、いまもう一度『郵政民営化は必要だったのか』という争点で選挙をやれば、自民党はボロ負けになるだろう」

亀井氏の選挙区広島6区にはライブドア社長のホリエモンこと堀江貴文氏が「刺客」として向けられたことは記憶に新しい。当時の武部勤自民党幹事長は、ホリエモンのことを「わが息子よ、わが弟よ!」といって持ち上げたが、自民党は何も説明していない。

民主党の小沢一郎代表と国民新党の綿貫代表は7月16日、全国郵便局長会(全特)の浦野修会長を交えて会談。次期衆院選の選挙協力を確認した。小沢氏は民主党の新しいマニフェストに郵政民営化見直しを盛り込むつもりだ。亀井氏がこう続ける。

「いま民主党の支持母体は『連合』しかない。これに全国郵便局長会をつける。国民新党が推薦する民主党の候補



再び亀井氏の動きが注目される

民党に戻りたいという思いがあるのか。そんななか、亀井氏が会合を持つのは自民党の加藤紘一氏、山崎拓氏である。最近では民主党の菅代表代行とともに「3KY」ともいわれる。一見、異色の「連携」は何を意味するのか。

亀井氏が説明する。

「平沼さんも鈴木さんもわれわれと統一会派結成ということではないが、彼らは予算には賛成、福田首相の不信任案には反対と、そこがわれわれと違うところが悩ましい。平沼さんはいつでもうけ入れるといっているんだが、マスコミに『平沼新党』とおだてられてちよつと舞い上がったね。新党立ち上げの苦労はオレが一番良く知っている。やるときは電光石火のごとく、水面下でやらなければダメ。(落選中の候補者に)カネを配ったとか、余計なことはいわないほうがいい」

亀井氏と平沼氏は清和会出身で、もともとは切っても切れない仲である。国家基本問題同志会で、お互い右の立場から憲法改正問題などを唱えたこともある。亀井氏としては「彼(平沼氏)にとつても昔の仲間と手を結ぶのが一番いい」というが、平沼氏のほうに自

「次期総選挙で自民党が負けることは間違いないが、公明党を入れて過半数になるかならないか」というときが微妙だ。自民党が20ぐらいいになった場合どうなるか。いよいよ民主党が政権を取れるとなれば、加藤氏や山崎氏が自民党を出てくるよ。つまり、村山内閣のときの『自社さ政権』と同じようなことが起こる可能性がある。そうしたら小沢氏だってオーケーだ」

その加藤氏が北朝鮮から帰国した拉致被害者について、テレビ番組で「北に帰すべきだった」と喋った。これに對し、「北の回し者か」「どこの国の政治家か」などと批判が噴出。亀井氏は即座にこうアドバースしたという。

「あくまで全部の拉致被害者を取り戻すための『外交テクニク』として自分は語つたと説明すべきだ。評論家的発言はダメだ。加藤さんは国民感情が

わかっていない」

衆議院で自民vs民主が互角だとしても、参議院で過半数を持っている民主党が圧倒的に強い。多数派工作を仕掛ける際には勝ったほうが負けたほうに手を突っ込むのが鉄則だと、亀井氏は見ている。自民党が「ポスト福田」を決めても、総選挙後はボロボロだ。

学会から「仏敵」といわれた男

ところで、亀井氏といえはかつて自民党で「四月会」に属し、創価学会問題を厳しく追及したことで知られる。6月13日、永田町の議員会館内で元公明党委員長・矢野絢也氏の話を聞く会が開かれたが、このとき先頭に立っていたのが亀井氏だった。

「矢野さんの話を聞いたが、『言論封圧』になつちやうとほつとけない。宗教団体ともあるうものが、仲間に対してあんなに口汚いことをいって罵るようなことをしてはいけない。オレは公明党の議員にもいっている。日蓮聖人が戦闘的だったというが、時の権力に對して批判するのはいい。一般庶民に對してやつたのでもないし、ましてや同じ信者同士で罵るのはおかしい。宗教改革Ⅱマルチン・ルターにならないと。矢野さんは本氣。創価学会・公明党は厄介なことを抱えたね」

矢野氏の国会招聘については、「これから民主党と協議していく」と語る。

者に対し、『全特』がまっしぐらに選挙を支える体制をつくる。これは民主党にとつて、最大の『選挙支援部隊』になることは間違いない」

次期総選挙で自公政権が過半数を割るのは確実と見られるが、かといって民主党が政権を担える政党かどうかは怪しい。亀井氏は「民主党には小泉以上に市場原理主義者がゴロゴロしている」と、警戒感を隠さない。国民新党の「原点」ともいえる「郵政票」を武器に民主党を「遠隔操作」しようという亀井流の作戦なのだ。

「平沼さんは舞い上がってる」

綿貫代表は、最近も無所属の平沼赳夫元経産相や新党大地の鈴木宗男代表と会談を重ね、衆院で統一会派を結成する構想を進めている。ここには「そうぞう」の下地幹郎代表や無所属の中村喜四郎元建設相も参加し、政策勉強会「野人の会」となった。

亀井氏は「野人の会」に参加していないが、ホンネはどうか。

かつて公明党の中心にいた矢野氏をめぐって政界動乱になる可能性もある。この動きの陰で小沢代表はどう考えているのか。亀井氏はこう見る。

「公明党はすでに総選挙のあとのことを考えているから、自民党を以前のように応援できない。小沢氏は再び公明党と組むのか」。いまはそう思っていない。だが、あの人はマキャベリストだ。パワーゲームをやつていけば、本当に公明党が自民党と手を切つてくるなら『いいよ』というかもしれない。学会・公明党の出方次第だと思う。だからこそ自民党は苦しいのだ」

かつて学会・公明党に「仏敵」とさんざんいわれ続けた亀井氏だけに、裏も表も知り尽くした戦術がそこにある。

最後に亀井氏が進める最大の政策を尋ねると、「思い切った積極経済政策だ」と答えた。財政出動を含め、アクセルをふかすべきところでブレーキを踏むような予算を組んでは、日本はダメになる。外国為替資金特別会計の積立金や特別会計剰余金など、財源はひねり出せるというのだ。

「財務省の手の平にのつて打つべき手を打たない政策ではダメだ。財務省の事務次官は会社でいえば経理係に過ぎない。それを大胆に国の政策として反映させるのが政治家の仕事だ」と語る。民主党も亀井氏の手練手管の政治力がなければ、政権獲得は難しい。